

# 和

Wa

夏号

2019 Summer  
Vol.52

- がん診療について  
「がんゲノム医療とは？」
- チーム医療の活動紹介  
「排尿ケアチーム」
- 栄養だより  
「夏の献立」
- 専門外来のご案内  
「下肢静脈瘤外来」



# がん診療について 「がんゲノム医療とは？」

遺伝子診療部部長 依藤 亨

「がん」治療の進歩は目覚ましく、この進歩が「標準治療」として広く普及するようになりました。それでも、標準治療ですべての患者さんが救えるわけではなく、残念ながら死亡される方もまだまだ少なくありません。

「がんゲノム医療」は、標準治療で治癒が望めない方や、もともと標準治療が存在しない希少がんを持つ方を対象として開発されてきた新しい治療です。

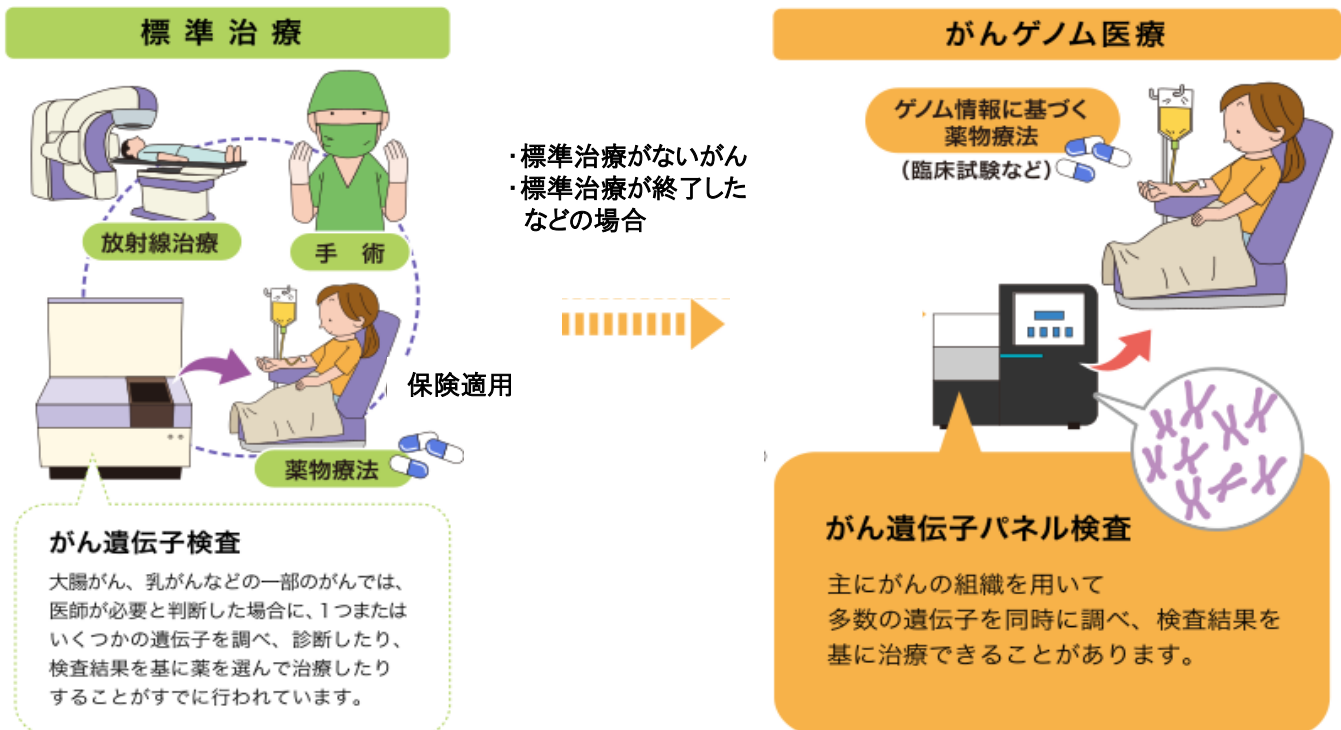
「がん」は遺伝子の病気です。何かの原因でヒトのからだの細胞の遺伝子に異常がおこって、増殖のブレーキが効かなくなったものが「がん」細胞です。最初は小さな一つの遺伝子異常からはじまりますが、増殖して大きくなっていくうちに次々に新しい異常が起こっていきます。手術でとれない「がん」に対しては抗がん剤治療や放射線治療を行います。はじめのうち抗がん剤に良く反応した「がん」が次第に治療に反応しなくなっていくのもこのためです。

がんの増殖を助ける遺伝子異常は数多くありますが、医学の進歩によってその多くが解明され、がんの増殖を助ける遺伝子異常のカタログがつくられてきました。また、個々の遺伝子異常のはたらきを抑制する薬も次々に開発されています。

「がんゲノム医療」は標準治療に抵抗性のがんや、まれな種類のがんをもつ方から、「がん」の一部を採取し

て、最新の検査技術でその遺伝子異常をすべて調べ上げ、見つかった遺伝子異常に有効と思われる薬を投与して、治療抵抗性の患者さんの治療を行う試みです。従来の治療では手詰まりと考えられる患者さんにも有効な薬が見つかる可能性があります。いままでは一部の大学病院や研究所などで研究として行われてきましたが、これからは「がんゲノム医療」をさらに推進し、より多くの方に治療効果を実現する目的で、厚生労働省主導でオールジャパンの医療として行われることになりました。

「がんゲノム医療」は「がん」を扱うどの医療機関でもできるわけではありません。多くの経験と知識を有するがん専門医、良いがんの標本をつくれる病理学の専門家、見つかった遺伝子異常の解釈をできる遺伝子の専門家がいることなどの条件が必要です。そのため、全国の主要病院からこれらの条件を満たす「がんゲノム医療中核拠点病院」、「がんゲノム医療連携病院」が選定され平成30年から予備的に全国で診療が始まりました。令和元年からはこれらの病院を中心に「がんゲノム医療」を保険診療として行うことが決まり、条件整備が進められています。大阪市立総合医療センターも既に条件を満たす医療機関として認定されており、市民の手の届く「がんゲノム医療」を提供していきます。



## チーム医療の活動紹介 「排尿ケアチーム」

泌尿器科部長 上川 禎則

「尿が出ない・出にくい」、「尿が近くて寝れない」と、排尿障害で日常生活に困っている入院患者さんは多くないですか？あるいは、「年やからしゃーないね」とか、カテーテル入れてる方が、「本人も看護も楽やし、このまま入れとこか」などと漫然と排尿の問題を放置していませんか？

実は、夜間排尿回数が多ければ入院期間が長くなり、結果的に医療費が増大するというデータがあります。逆に、尿道カテーテルが留置されている人に適切な排尿ケアを行い、排尿を自立させることにより、入院期間の短縮や医療費の減少につながるというデータが出てきました。このような経緯から、平成28年4月から排尿自立指導という医療行為に保険点数が請求できるようになりました。これは、医師や看護師が、それぞれ単独で患者さんに排尿指導するのではなく、排尿障害（正式には下部尿路機能障害と言います）に対する治療経験を持ち、研修を受けた、「医師」「看護師」「理学療法士」からなるチームを作り、チームで計画を立てて排尿自立の指導をした場合に、保険請求できるしくみです。つまり、医師による内服治療、看護師による排尿ケア、理学療法士による理学療法を組み合わせることで排尿自立に導くことを目標としています。

当院でも昨年10月から「排尿ケアチーム」が作成されました。現在、毎週月曜日の朝にチームカンファレンスを行い、その後、対象患者の回診を行っています。本来、この排尿自立管理料は、「尿道カテーテル抜去後に、尿失禁、尿閉等の下部尿路機能障害の症状を有する患

者」と「尿道カテーテル留置中の患者であって、尿道カテーテル抜去後に下部尿路機能障害を生ずると見込まれる者」に限られていますが、現在は、排尿に困っている患者ならだれでも相談を受け入れています。実際には、下部尿路機能障害の患者さんが多い成人病棟にリンクナースを置いてもらい、リンクナースを介して排尿ケアチームに相談してもらう体制を取っています。チーム発足以来、徐々に排尿ケアチームの存在が知られてきて、最近では月15人程度の新規患者さんの相談を受け、毎週約10名の患者さんをチームで回診し排尿指導しています。

当院の排尿ケアチームは、ただ指導料を取るために結成されたチームではありません。排尿に悩んでいる患者さんの日常生活を、少しでも楽にできるようなケアを行っています。ぜひ、気軽に排尿ケアチームに相談してください。



●●排尿ケアチーム●●

## 夏の献立

●●●栄養部 海野 悠

トマトや茄子、とうもろこしなどの夏野菜は6月から8月が旬で、太陽の強い日差しを受けて育つ野菜はビタミンCやカリウムも豊富です。夏野菜を食べて暑い夏を乗りきりましょう。



### ●鶏と茄子の旨煮

〔材料 2人前〕

鶏もも肉	120g
なす	2個 (160g)
人参	¼本(40g)
サラダ油	小さじ1
だし汁	120ml
砂糖、みりん	各小さじ1
醤油	小さじ2
三度豆	10本(30g)
(1人分151kcal 塩分1.0g)	



### 作り方

- 1 材料の下ごしらえをする  
なすはヘタを切り、大きめの一口大に乱切りする。鶏肉も一口大に切り、人参も乱切りにする。三度豆はさっとボイルしておく。
- 2 鶏肉と野菜をいためる  
フライパンにサラダ油をいれ、中火で熱し鶏肉をいためる。焼き色がついたら、なすと人参を加えいためる
- 3 だし汁で煮込む  
2のフライパンにだし汁と調味料を加えて、弱火で7分煮込む。三度豆を加えひと煮たちすれば完成。

栄養だより

専門外来のご案内

# 下肢静脈瘤外来について

心臓血管外科部長 村上 貴志

このたび、木曜日午前中に「下肢静脈瘤外来」を開始いたしました。

下肢静脈瘤は頻度の高い疾患で、70歳以上では75%の方に認められます。症状には、静脈が浮き出る、脚のむくみ、夜脚がつる、皮膚のかゆみ、皮膚炎、皮膚が茶色くなり固くなる、皮膚潰瘍などがあります。

エコー検査で、下肢静脈瘤の原因を突き止めます。その原因や静脈瘤のタイプから、治療の方法を選択します。外来で行われる「硬化療法」から、入院して行う「血管内治療」や局所麻酔下の小手術などの治療を、患者さんの希望と相談しながら決めます。

原因不明の脚の腫れは、目に見える静脈瘤ではなくても、静脈の閉塞やリンパ浮腫かもしれません。原因をさぐり、治療を行います。

## 静脈鬱滞性皮膚炎・皮膚潰瘍



内視鏡下筋膜下不全穿通枝切離術を行いました

## 下肢静脈瘤



網目状静脈瘤



伏在静脈瘤



クモの巣状静脈瘤



## リンパ浮腫

圧迫療法にて改善しました

## 心臓血管外科外来担当医表

	月	火	水	木	金
午前	青山	村上	阪口	下肢静脈瘤外来	尾藤
午後				青山	

## お知らせ&ニュース

### 知っ得! なっ得! 医学情報

●今回は、心臓疾患、血液疾患、下肢疾患について講演します!

- 日時/令和元年9月7日(土) 14時~
- 場所/さくらホール

### こどものひきつけ2019

ーてんかんをよりよく知るためにー

●てんかんについてたくさんの先生からのお話が聞けます。

- 日時/令和元年9月8日(日) 13時~
- 場所/さくらホール



●詳細は当院ホームページをご覧ください。

## 大阪市立総合医療センター

3Hの理念  
Heart For Public Service  
広く市民に信頼され、地域に貢献する公立病院をめざす。  
Humane  
人間味あふれる温かな医療を実践する病院をめざす。  
High-technology  
高度な専門医療を提供し、優れた医療人を育成する病院をめざす。

■発行責任者：大阪市立総合医療センター  
〒534-0021  
大阪市都島区都島本通2-13-22  
地域医療推進委員会委員長 山根 孝久  
<http://www.osakacity-hp.or.jp/ocgh/>